

地域における生活習慣病高齢者の運動コミュニティ創出と 医療費削減モデルとしての検討

Study as a model of secondary prevention for the elderly patients
with non-communicated disease (NCD) in community setting.

佐藤 真治 (SATO Shinji)

研究課題の要旨

【目的】医療の進歩は、生活習慣病疾患患者の高齢化という新たな問題を生んでいる。しかし、慢性期の生活習慣病患者が安心して運動できる環境は限られている。そこで、地域に生活習慣病患者が仲間と一緒に運動できる場(運動コミュニティ)を創出し、運動生理学的な効果や医療費負担額への影響を検討する。【方法】対象は、介護や入院までは必要としない生活習慣病患者とする。対象は、運動療法に特化した診療所(本プロジェクトの研究拠点)にて、医学的問診・運動負荷試験を経た後、運動コミュニティへ参加する。また、地域コーディネーターを配置し、参加者のリクルートや運動コミュニティのファシリテーション(協働の促進)などを担う。運動コミュニティの活動期間は1年とする。【アウトカム】運動生理学的な指標として最高酸素摂取量を測定し、対照群と比較検討する。また、最高酸素摂取量で補正した質的生存年数と診療報酬額を求め、増分費用効用比(ICUR)の観点から評価し、運動コミュニティの医療費削減効果を明らかにする。さらに、医療費削減施策の地域医療モデルケースとして他の地域へ展開する。

研究の進行状況

助成期間の前半にあたる2012年4月1日から2012年9月31日の間、運動コミュニティの活動拠点(参加者のリクルート、運動負荷試験、運動処方箋の発行を担う)総合健康ゾーン診療所を順調に運営し、実績を増やすことができた(運動負荷検査のべ実施者数: 65名)。

昨年は、本格的な運動コミュニティを地域に創出するにあたり、プレリナリーの試みとして期間限定の運動コミュニティ(からだ引き締め応援隊)を設立し、活動の成果を追跡した。からだ引き締め応援隊の参加者は24名であった。2011年7月11日に第一回目の活動をおこない、5回の活動日を経て、10月17日に修了式を迎えた。得られた成果とノウハウは、今年度から始まるGENSAN (Genki-Exercise-coNnected-Social-Heart-Network)プログラム(後述)に引き継ぐ。

GENSANプログラムでは、豊岡市内の行政区を対象に、運動コミュニティ創出に積極的に取り組むモデル地区を公募し、行政が「健康ひろば」(からだ引き締め応援隊から名称変更)の活動を協力・支援する。具体的には、「健康ひろば」活動に必要な物品を貸し出し、運動指導コーディネーターを派遣する(コーディネーターの派遣は、3か月間は週1回、その後は随時)。さらに、「健康ひろば」参加者には定期的に血液検査および形態計測が施行され、運動効果がフィードバックされる。また、新たな試みとして、運動コミュニティを地域の社会資源とつなぐことで、地域全体の絆(ソーシャルキャピタル)を高めることも目指す。助成期間の前半は、GENSANプログラムの計画立案とコーディネーター育成、指導DVDの作成をおこなった。やや余談になるが、プログラム名のGENSANは、玄武岩の産地である豊岡市のマスコットキャラクター(玄さん)から命名した。このプログラムが「玄さん」のように市民の方に親しみを持って受け入れられることを期待している。以上、地域に運動コミュニティを創出するという本研究課題は、ソーシャルキャピタルという新たな視点を得て、さらに大きく展開しつつある。